

科目名	社会福祉行政論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平田 俊浩		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	市役所にて勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科・3年						
授業概要	福祉国家においては国民の福祉は様々な制度によって構築され、保障されている。福祉制度は、地域住民のニーズに応じた福祉計画に基づく運営が目指されている。社会福祉実践を行う専門職者として、そのしくみと意義を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					各福祉計画の目的と特徴を説明することができる。	
	○					福祉の法制度のおおまかな流れについて説明することができる。	
	○					福祉計画作成にあたっての住民参加の方法を説明することができる。	
	○					高齢化がもたらす福祉財源に関する課題について自分で考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画 第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・科目説明 ・福祉と制度 ・福祉の法制度の展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	・行政の骨格 ・社会福祉と法制度 ・福祉行政の組織				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	・社会福祉基礎構造 ・財源と社会福祉				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	・一般会計予算と社会保障関係費の動向				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	・地方自治体と民生費の動向				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	・福祉サービスの利用と費用負担				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	・小テスト①				既習範囲を復習しておくこと	
	8	・福祉計画の目的・意義				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	・福祉計画における住民参加				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	・老人福祉計画・介護保険事業計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	・障害者計画・障害福祉計画 ・次世代育成支援行動計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	・地域福祉計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	・小テスト②				既習範囲を復習しておくこと	
	14	・科目のまとめ①				既習範囲を復習しておくこと	
15	・科目のまとめ②				既習範囲を復習しておくこと		
評価方法	(定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト(4回)	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
授業態度				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	公的扶助論						
科目名(英)	Public assistance theory						
単位数	2単位	時間数	15時間	担当者	三谷 茂男		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	市役所にてCW、面接員として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公的扶助はどのように生まれ、どう変わり、現代にいかに関能しているかを学ぶ。その際、諸外国の歴史や日本での発展過程も学ぶ。 ・現代の貧困(子ども、高齢者など)の実態を学び、公的扶助制度がどのような機能を果たしているかを学ぶ。 ・講義を中心に進めるが、適宜、レジメによる確認や受講者同士のグループワークを取り入れる。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代の貧困の実態を理解し、貧困の原因を説明できる。	
	○					公的扶助の歴史的展開と貧困理論を説明できる。	
	○					日本の生活保護制度の概要を説明できる。	
	○					低所得者対策の概要を説明できる。	
			○			確認テストや発表を積極的に行える。	
テキスト・教材 参考図書	『低所得者に対する支援と生活保護制度』、中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	公的扶助の概念			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。		
	2	貧困・低所得者問題と社会的排除			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	3	公的扶助の歴史①			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	4	公的扶助の歴史②			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	5	公的扶助の歴史③			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	6	生活保護制度の仕組み①			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	7	生活保護制度の仕組み②			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	8	生活保護制度の仕組み③			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	9	生活保護制度の仕組み④			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	10	生活保護の動向			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	11	低所得者対策の概要①			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	12	低所得者対策の概要②			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	13	生活困窮者自立支援法と最近の政策動向			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	14	判決・裁決に学ぶ			・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。 ・グループワークに積極的に参加すること。		
15	個人発表			・個人発表ができるよう、練習しておくこと。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(筆記) 70%・・・講義内容を理解しているか、自分の考えを論理的に展開できるかを評価します。 ・日常的な授業における取組状況の評価 30%・・・毎回行う振り返りの理解度 20%、講義中の発言当 10% 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	確認テスト	◎	○				20%
態度・発表				◎		10%	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞等を中心に社会的問題に常に関心を持ってください。 ・他の受講生の学習環境を阻害する行為は禁止とします。 ・出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 						

科目名	社会保障論(後期／通年)						
科目名(英)	Social Security						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	林 孝和		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会福祉士として大学教員		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	社会保障制度の各論を講義する。医療保険制度、介護保険制度、労働者災害補償保険制度、雇用保険制度、労働問題、生活保護制度、世界の社会保険制度の比較を取り上げる。社会保障に関する新聞記事や最近の出来事を取り上げ、配布資料をもとに講義を進め、視聴覚教材を使用することによりさらに理解を深める。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				医療保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
	○	○				介護保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
	○	○				労働保険制度(労災保険、雇用保険)の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
	○	○				生活保護制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
	○	○				世界の社会保障制度との比較をとおり、我が国の特徴を知り説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 社会福祉士養成講座12「社会保障論」第6版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	前期の振り返りと後期授業の概観			あらかじめ関連するキーワードを調べ、基本事項を理解しておくこと		
	2	医療保険制度の全体像			"		
	3	健康保険制度と共済制度の概要			"		
	4	国民健康保険制度の概要			"		
	5	後期高齢者医療制度の概要			"		
	6	介護保険制度の全体像			"		
	7	介護保険制度 被保険者がサービスを利用するプロセス			"		
	8	介護保険制度 介護保険で利用できる具体的なサービス			"		
	9	労働者災害補償保険の概要			"		
	10	雇用保険制度の概要			"		
	11	労働現場で起きる労働問題にどう対処するのか			"		
	12	労働保険制度(労災保険、雇用保険)のまとめ			"		
	13	生活保護制度の概要			"		
	14	世界の社会保障制度の紹介 我が国との比較			"		
	15	総括・まとめ					
評価方法	(1)定期試験(マークシート、論述等)を実施する。(2)配布資料を提出させる。(3)授業内で発表させる。以下を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト		○				10%
	宿題・レポート				○		10%
発表・作品							
履修上の注意	通年で出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	地域福祉論(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 朋子		
実施年度	2021年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	社会福祉士として スクールソーシャルワーカーで勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	福祉現場において、ミクロ・メゾ・マクロの視点を持ち、個人の福祉課題を地域の福祉課題と捉えコミュニティソーシャルワークの実践につなげることでできる人材の育成を目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の発展過程について説明することができる	
		○				地域福祉の主体について学び、福祉教育の必要性と方法についての説明することができる	
	○					地域福祉実践における行政組織の役割について説明することができる	
	○					地域福祉実践における民間組織の役割について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座9「地域福祉の理論と方法」中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	前期の振り返り					
	17	ソーシャルサポートネットワーク					
	18	社会資源の活用・調整・開発					
	19	社会資源の活用・調整・開発					
	20	精神障害と地域生活					
	21	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	22	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	23	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	24	地域福祉課題について考える					
	25	地域福祉課題について考える					
	26	地域福祉課題について考える					
	27	地域トータルケアシステムの構築と実際					
	28	災害支援について					
	29	災害支援について					
30	試験前オリエンテーション						
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品		○		◎		20%	
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。 出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	老人福祉論						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	椋原 弘司		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	大学等教員		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の4項目のねらいにそって講義を進めていく。①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解させる、②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解させる、③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解させる、④高齢期における生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					高齢者の生活実態について説明できる。	
	○	◎		○		高齢者を取り巻く社会情勢について説明できる。	
	◎					高齢者の福祉需要について説明できる。	
	◎					高齢者福祉制度の発展過程について説明できる。	
	◎					高齢者介護の概念・対象・理念について説明できる。	
	◎					高齢者介護過程における基本的な技法を説明できる。	
	○	◎		○		高齢者介護過程における基本的な技法を行うことができる。	
	◎					高齢者介護予防の基本的な考え方を説明できる。	
◎					終末期ケアの在り方について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	最新 社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	介護保険サービスの体系 一 居宅サービスと施設サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	介護保険サービスの体系 一 介護予防サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	介護保険サービスの体系 一 地域密着型サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	高齢者を支援する組織と役割 一 行政機関、地域包括支援センター等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	高齢者支援の方法と実際 一 連携と実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	高齢者を支える専門職の役割と実際 一 専門職倫理と多職種連携				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	介護の概念や対象 一 介護の概念・理念・対象				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	介護予防の概念や対象 一 介護予防の概念・理念・対象				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	24	介護過程 一 概要、展開技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25	自立に向けた介護(介護各論) 一 家事・整容・移動・食事・口腔衛生・入浴・清潔・排泄等各場面における自立支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	26	介護過程 一 自立に向けた介護(退院に伴う在宅介護体制の構築)の具体的な検討				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	27	尊厳ある介護(介護各論) 一 認知症ケア				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	28	尊厳ある介護(介護各論) 一 終末期ケア				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
29	尊厳ある介護(介護各論) 一 住環境整備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
30	後期(第16回～29回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト				教科書の該当範囲の復習をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に適宜小テストを実施する。(3)授業中に適宜事例検討・発表を実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉施設経営論(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	百枝孝泰		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	高齢者施設にて施設長として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	福祉サービスの中核を担う専門職として必要な福祉サービスを提供する組織やその経営や管理についての基礎的な知識について習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○		◎		福祉サービスにかかわる組織や団体について説明できる	
	◎	○		◎		福祉サービスの組織と経営に関する基礎的な理論を説明できる	
	○	◎		◎		福祉サービスの管理運営法の基礎を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会 / 「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営 / 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	福祉サービスの管理運営の方法(1)サービスマネジメント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17	福祉サービスの管理運営の方法(2)マーケティング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	福祉サービスの管理運営の方法(3)福祉サービスの質の評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	福祉サービスの管理運営の方法(4)福祉サービスの質の評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	福祉サービスの管理運営の方法(5)苦情対応とリスクマネジメント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	福祉サービスの管理運営の方法(6)サービス提供のあり方の方向			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22	福祉サービスの管理運営の方法(1)人材確保と育成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	福祉サービスの管理運営の方法(2)人事管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	福祉サービスの管理運営の方法(3)労務管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	福祉サービスの管理運営の方法(4)人材育成の意義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	福祉サービスの管理運営の方法(5)経営管理と育成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27	福祉サービスの管理運営の方法(1)財務管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	福祉サービスの管理運営の方法(2)会計管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	29	福祉サービスの管理運営の方法(3)情報管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	30	振り返り					
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎		○		5%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ(後期/通年)						
科目名(英)	Social Work Support ExerciseⅡ						
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	亀田 尚		
実施年度	2022年度	実施時期	(後期/通年)	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。 卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク実践事例集 明石書籍						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	31~36	卒業研究10~15 グループごと、テーマを明らかにするために実地調査を実施する。					
	37	九州の社会問題 沖縄戦と後遺症1~2					
	38	沖縄戦の実際について学び、後遺症に苦しむ人たちの現状について考え、自分たちに何が出来るかを考察する。					
	39~44	卒業研究16~21 実地調査を行い、結果を文章に落とししていく。					
	45	九州の社会問題 水俣病1~2					
	46						
	47	過労死 啓発事業					
	48						
	49~56	卒業研究22~29 卒業論文を書き進めて、担当教員からの指示の元に修正を繰り返す。					
	57	卒研発表会準備1~2					
	58	グループごと、卒業研究発表会の資料を作成する。					
	59	卒研発表会1~2					
60	卒業研究発表会を実施し、SW科1~3年生、および担当教員に成果を発表し、質問・講評等を受ける。						
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	○		◎	○	40%
	発表・作品	◎	○		◎	○	40%
	出席率・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、単位を取得することができない。						